

インターネットを使った情報収集 ～シンガポール留学を経て～

山田和志*
kazushi@kit.ac.jp

1 はじめに

2015年5月～2016年3月の間、スーパーグローバル大学創成支援事業制度を利用して、シンガポール国立大学（NUS）に客員研究員として滞在していた。シンガポールはマレー半島の最南端に位置する小さな島国であり、東南アジアの観光都市としても非常に有名である。国土は710 km²ほどで大きさは淡路島や東京23区とほぼ同じと言われるくらい小さいが、人口は約540万人であり人口密度は高い。また日系企業も多く支店や工場などがあり、在シンガポール日本人数も4万人以上と言われており街中でも日本人を見かけることは多かった。

シンガポールに住んでみてわかったことは英語よりも中国語の多さである。長い歴史のもと中国からの移民が多く存在するシンガポールでは中国語を話せる人も多くおり、街中を歩いて話しかけられる場合には英語よりもまず中国語である場合が多かった。また実際、シンガポールには中国やマレーシア、インド、スリランカなどからの移民が多くいるため、公用語は英語、中国語、マレー語、タミール語の4言語ある。従って、政府などからの案内パンフレットも4言語で書かれているため、本来ならばA4片面1ページの案内がA4両面2枚で配布されるのも日本では想像できないことであった。また例えば、工事中などで「危険」という標識もDangerと併せてマレー語とタミール語でも表記される。そういう意味では、多言語国家において情報というものを如何に確実に知らせるかということは困難な課題でもある一方で、大変興味深い問題でもある。

本稿では、シンガポール滞在中におけるインターネット事情やNUSでの学内ネットワーク、情報システムについて個人的な体験談の1つとして紹介したい。



図1 マリーナベイとマーライオン

2 スーパーグローバル大学（SGU）とは

日本学術振興会ホームページによれば『スーパーグローバル大学創成支援事業は、「大学改革」と「国際化」を断行し、国際通用性、ひいては国際競争力の強化に取り組む大学の教育環境の整備支援を目的とするもの』であり、『我が国の高等教育の国際競争力の向上を目的に、海外の卓越した大学との連携や大学改革により徹底した国際化を進める、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学に対し、制度改革と組み合わせ重点支援を行うこと』を目的としている。2014年秋に本学がスーパーグローバル大学創成支援事業（タイプB）に採択され、本事業を実施するにあたり本学では「カリキュラムの魅力化」「人材の魅力化」「場の魅力化」という3つの「魅力化」を軸としている。本学の10年間の計画として外国人留学生数の拡大、日本人学生の海

* 繊維学系 助教

外留学促進、グローバル化に対応したカリキュラム改革、教職員組織のグローバル化、キャンパス・ダイバーシティの推進などを掲げており、筆者はこの中でも特に教職員組織のグローバル化およびグローバル化に対応したカリキュラム改革推進のために2015年度にNUSへ留学した。

SGUの派遣先は世界中どこでも自分で選ぶことができたが、初期の選択条件は「提携校であること」「自分でアポを取って渡航すること」という条件が付いたためまずは本学の海外提携校リストから選ぶことに。そして個人的な条件として寒いところは苦手なのでできるだけ寒くない（寒くならない・年中夏）国と大学ということでNUSに決定した経緯がある。

3 シンガポールでのネット事情

シンガポールも先進国の一つであり、かつ物価も世界一高いと言われるほど生活費にはかなりのお金がかかるのが実情である。そんな中でも重労働者たちは低賃金で雇用されているという内情もあり、ホーカーという大衆向けフードコートでは安価で食事することができ、バスや電車、タクシーの料金なども日本と比較してかなり安く設定されていた。また現代人にはかかせない携帯電話やスマートフォンもSIMロックフリーであり、プリペイド式SIMと組み合わせれば1ヶ月の通話・通信代金は2000～3000円程度で十分に利用できるため、日本と比較しても高くなく、むしろ安く感じた。さらに、国内どこでも4Gに対応しており、インターネットなどスマートフォンを使用しているも全くストレスを感じることなく利用できた印象がある。携帯電話会社としては、Singtel、Starhub、m1などがあり、日本の御三家と同じような契約方式が多く、1年縛りや2年縛りで最新のスマートフォンなどを安価に購入できるプランやケーブルテレビなどとのセット割などもあり、その辺りは現在の日本と同様の取組状況であったと思う。それ故、1年間しかシンガポールに滞在しない筆者にとってはプリペイドSIMの便利さが際立った。

4 シンガポール国立大学(NUS)での学内ネットワークについて

まず、NUSに行って通信に全く困らなかった理由の一つがeduroam（国際学術無線LANローミング基盤）ネットワークの充実である。筆者は以前より本学の情報科学センターにてeduroamの利用登録をしていたため、初めてNUSに行った時からキャンパス内のどこに居てもeduroamに接続することができ、スマートフォンの地図アプリなど使って自分の居場所や目的とする教授の居室などを検索・確認することができた。これはとても便利であった。現在、本学もまだ学内どこでも接続可能とはなっていないが講義室などでは利用できるようになっており、今後キャンパス内でもどこでも接続できるようになることを願っている。



図2 NUS・Faculty of Engineering

次に、NUSの一職員（客員研究員）となったのでインターネット接続のためのアカウントを発行して貰った。これも本学と同じく単にアカウントを発行すれば即使用できるのではなく、まずはWebアクセスしていろいろな講習を受講しライセンスを取得する必要がある。もちろん全て英語なのは当然なのだが事前に何の説明も貰えなかったので順番に調べてライセンスを取得しなければならず、初めて行う者としては大変であったが良い経験でもあったと思う。また、必ず行わなければならない講習の一つが火災時などの緊急避難に関する講習である。これも学内ネットワークのWeb上に受講教材があり、ビデオを見ながら内容を理解し、ライセンス取得しなければならなかった。一方で映像とスライド教材が準備されており、筆者にもわかりやすく記載されており理解し易い内

容にもなっていたことから、本学の安全教育などにもこのような教材を Moodle 上に充実させることができるのではないかと考えている。さらに、化学実験などを行う教員や学生は化学実験に関する安全教育も Web 上で講習を受講し、試験に合格しなければ実際に実験を行うことはできず、かなり厳格にライセンス管理・教育が行われていた。職員番号や学籍番号とこれらライセンス等が紐付けされており、ネットワーク先進国・大学ならではの取組にも感じた。

また、配布されているネットワークアカウントのパスワードは6ヶ月で強制的にリセットされる仕組みとなっている。滞在して6ヶ月が過ぎた途端、全くネットワークに入れず（もちろん eduroam では接続可能だが）、何か学内ネットワークのエラーかな？と思いながら調べてみるとパスワードの強制リセットであることがわかった。これは非常に面倒だし、忙しい時にリセットされて Web から再設定しなければならないというのはイライラもするが、ある意味良い取組に思っている。特に日本ではパスワードを定期的に変えることはなく、ついそのまま使い続けてしまうが、大学の情報ネットワークシステムの安全性確保の観点にたてば、全員のパスワードを定期的に変えさせるのは悪くないであろう。

キャンパス内のどこでも無線 LAN に繋がるのは eduroam だけではなく、NUS アカウントも同じである。従って、廊下においても食堂でご飯を食べていても、ベンチで寛いでいても学内ネットワークに接続することが可能であったため、廊下に設置された自習・談話用テーブルなどではいつも学生がノート PC を使いながら授業の予習やレポート課題作成などを行っている姿が見られた。これは本学ではなかなか見られない光景の一つでもある。

さらにメインキャンパスに隣接して U-Town という学生寄宿舎といくつかのシアター教室、食堂や売店からなるキャンパスがあり、そこでは授業のない学生同士がいつも夜遅くまで勉強する姿があった。NUS がアジアナンバー1の大学であることとは別に、シンガポールの気候も関係していると思われる。シンガポールはほぼ赤道直下（北緯約1度）で常夏の国であり

日中の日差しは非常に強いが夕暮れ後は 20～25℃程度となり風も心地よく吹いているため室外で勉強するには最適である。さらに、シンガポールは国を挙げて蚊を駆除しているので日本の夏と比較してほとんど蚊がおらず、一年中、虫刺されなど気にすることなく寛いだり、勉強したりできる環境が整っている。日本のように春夏秋冬の四季があり暑い～とか寒い～とかいうことなく勉強や研究ができる環境というのはとても羨ましく感じた。しかしながら、筆者は日本で生まれ育っているので四季が恋しいと思ったこともしばしばあった。



図3 NUS・U-Town

以上までの内容からわかるように NUS キャンパスの各講義室には学内無線 LAN が完備されていることがわかる。さらに講義室もシアター形式で大きく、本学などとは違って机がなく椅子+補助テーブルのスタイルになっていた。各講義もプロジェクター利用して PPT などで解説し、1コマ2時間あった場合には45分講義して15分休憩、その後45分講義するなど教員によっては時間配分も工夫されていたりして、講義に集中し易い環境作りが行われていた。さらに講義で使用される PPT スライドの PDF

化資料も事前にダウンロード可能なため、学生は講義までに予習することができ（予習しなければついていけない）、勉学向上のための工夫がいろいろとなされていたことを体験できた。



図4 シアター教室での講義風景

5 おわりに

SGU 派遣でシンガポールに行くときには、1年って少し長いかなと思っていたがあっという間の1年でした。帰る頃にはもう1年、いや2年でももう少しシンガポールで過ごしていたいと思っていた。実際のところ、シンガポールに行った当初は、右も左もわからず情報難民状態であり、気がつけばイベントなども終わった後だったということも多々あり、次回は1年後となれば不完全燃焼なことも多く残

してきたように思っている。インターネットに接続することができ、スマートフォンやPCを使って欲しい情報は何でも得られる世の中になりつつある一方で、情報が氾濫しているが故に、必要な情報を必要な時に瞬時に見つけ出すことの難しさも再認識できたと感じている。情報難民ではないが、情報の波に乗れない、ついていけないというのでは意味がなく、やはり如何に上手く今有る情報を活用するか、必要な情報を見つけ出し共有するかというのが仕事でもプライベートでも今後重要になってくるのではないかと思う。また、このような貴重な機会を与えて下さった本学関係者の皆様には心より感謝と御礼申し上げます。



図5 お世話になった He Chaobin 教授と記念撮影